

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	270301260		
法人名	医療法人社団豊仁会		
事業所名	グループホームぬくもり		
所在地 (電話番号)	〒039-1165 青森県八戸市石堂一丁目14番27号 (電話) 0178-21-2688		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 12月 5日	評価確定日	平成 20年 2月29日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 1月 18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算	8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,100 円	その他の経費(月額)	12,900 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,100 円			

### (4) 利用者の概要(10月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	83 歳	最低	78 歳
		最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人八戸城北病院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホームと同じ法人が運営する病院や老人保健施設、通所介護施設が併設されており、利用者の生活支援に関する日々の相談や、状態変化があった際の協力と連携体制が整っている。管理者および職員は、地域の中のホームとして溶け込むよう、町内会や地域のボランティアグループへ積極的に働きかけたり活動へ参加したりすることにより、地域との関わりを深めている。毎日の生活は細かなプランを組まず、利用者のペースを尊重し、その時々のおいに寄り添うよう支援されており、ぬくもりと暖かさを感じさせるホームである。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題なし。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で話し合い作成している。前回評価での改善課題はなかったが、評価の意義を理解しサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1度定期的開催し、ホームの運営等について知ってもらおう取り組んでいる。外部評価の結果も報告し、率直な意見や感想をもらいながら日々のケアに活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族に対しては、日頃からの声かけ、ぬくもり通信の活用、家族会での交流を通じ、情報提供と運営に対する意見の反映に取り組んでいる。意見箱は設置しているものの、ほとんど意見が出てこないため、日頃の面会時に気軽に話しあえる雰囲気作りに努め、運営推進会議にも家族会の参加を呼びかけ意見を出せる機会を設けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として町内会に加入し、町内清掃活動や防災訓練、老人クラブ等の行事に参加している。また、ボランティアの方が訪問し、たまねぎ染めを一緒に行うなど、地域との関わりを積極的に持ち、交流を深めている。公民館祭りでは健康相談を担当し、地域の高齢者の相談役として活動している。外観は施設的であるが、積極的に関わってきたことで来訪者もあり、ハード面の不利を克服する努力は十分なされている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人共通の理念の他に、地域密着を掲げる利用者にも分かりやすい言葉で作られたホーム独自の理念がある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々申し送りの後、理念を唱和し意識づけを行っている。管理者から職員へ、理念は常に利用者のケアの基本であると助言されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の一員として町内会に加入し、町内清掃活動や防災訓練、老人クラブ等の行事に参加している。また、ボランティアの方が訪問し、たまねぎ染めを一緒に行うなど、地域との関わりを積極的に持ち、交流を深めている。公民館祭りでは健康相談を担当し、地域の高齢者の相談役として活動している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で話し合い作成している。前回評価での改善課題はなかったが、評価の意義を理解しサービスの質の向上に努めている。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的開催し、ホームの運営等について報告している。外部評価の結果も報告し、率直な意見や感想をもらいながら日々のケアに活かしている。		
6	7	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会ある事に役所に足を運んだり、電話で相談し、運営や現場の実情等を伝えるよう努めている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修、内部研修に参加し研修報告会で全職員が理解できるよう努めている。実際の相談はなかったが、必要時に活用できるよう情報の提供や理解の向上に努めている。		
8	9	虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部の研修に参加し研修報告会で全職員は理解しており、尊厳に向けた取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に詳細に説明を行い、事業所としてできること、できないこと、重度化の対応なども説明し理解頂き同意を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>日々の暮らしぶりは家族の来訪時の他に、「ぬくもり通信」や家族会でも報告している。体調不良時にはその都度報告している。また、各居室にふれあい帳や小遣い帳を設置し、家族が自由に閲覧できるように配慮している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱は設置しているものの、ほとんど意見が出てこないため、日頃の面会時に気軽に話しあえる雰囲気作りに努めている。また、運営推進会議にも家族会の参加を呼びかけ意見を出せる機会を設けている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>併設からの異動がある場合には、引継ぎ期間を設けるなどの対応をし、利用者への影響を最小限にするよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>機会がある毎に外部・内部の研修に参加している。受講者による研修報告会も行われている。併設施設との勉強会にも参加し情報、知識を共有している。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者及び職員は同業者との研修や勉強会に参加し、情報交換を行い、日々のケアに活用できるよう取り組んでいる。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に職員が訪問したり、数日間通所で体験していただくなどして徐々に馴染んで頂けるよう配慮している。入所の際は、環境の変化を軽減し、本人らしく過ごせるように家族と相談し、馴染みの家具の持込や趣味で作ったお気に入りの品を持参してもらおう等工夫している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員の都合で物事を決めるのではなく、利用者と一緒に考えながら支援している。また、日々の関わりを通じて利用者を人生の先輩として敬い、暮らしの知恵を教えてもらいながら人間同士としての繋がりを築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし、意向の把握に努めている。言葉や表情、行動の真意を推し測り、確認を取り、生活を支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の意向が盛り込まれてあり、日々の生活記録を重視し、評価、介護計画の作成に活かしている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、介護計画は毎月評価すると共に、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族、本人の要望に応じて見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、暮らしの継続に必要な外出支援や通院支援等に柔軟に対応し、個々の満足度を高める努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は基本的に家族となっているが、不可能なときには職員が代行するようにしており、利用契約時に説明し、同意を得ている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々のニーズに合わせ、医師、家族、スタッフで協議を行い、支援につなげている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議時に職員へ意識付けさせ、日々の関わりにおいても職員間で振り返り、利用者の尊厳、個人情報の保護に努めている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に縛られることなく、個々の体調や希望、気持ちを尊重した臨機応変な個別支援を実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の状態に応じ、食材の準備や盛り付け、片付け、茶碗拭きを共に行い、職員と利用者が和やかな雰囲気であり、さりげない声かけやサポートもされていた。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>本人のこれまでの入浴習慣や要望を聞き入れている。また、仲の良い方同士一緒に入り、安心感をもってもらう工夫をしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人一人が何らかの役割を持って意欲的に活動できるよう声かけや得意分野を広げ、張り合いや喜びのある生活への配慮がなされていた。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>個々のニーズに応じて、心身の活性につながるよう定期的に散歩、買い物等に出かけている。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が抱えるリスクに対して正しい知識を持ち、日々の関わりに関してもスタッフ間で振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。利用者の所在が確認できるようスタッフ間で意識付けがなされている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議や家族会を通じ、地域住民の協力を得て、年1回法人全体での避難訓練を実施し、さらにホーム独自の実践的な避難訓練にも取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分補給量を個々に記録されており、一人ひとりの摂取状況が把握できている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルが作成されており、外部研修に参加、職員への勉強会を開催し、予防・対策に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を喚起するものを意識的に取り入れている。また、利用者にとって使いやすい馴染みの物を設けると共に、ソファやこたつを置き、くつろげるスペースをつくり、居心地の良い空間を作っている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの物を持ち込んで頂けるよう、家族への説明も出来ており、持ち込みの家具等でその人らしさが感じられる環境ができています。</p>		

 は、重点項目。